

「まいにち笑顔 みんなが笑顔」

七小の鏡となる行動



七小ではこれまで、地域の方からこんな連絡をいただくことがありました。

「子供たちが道路に広がって歩いていて交通の邪魔になっている」

「中央公園でお菓子のゴミが捨てられて散らかっている」

「みらいくなどの公共施設で大きな声で騒いでいて困る」

どれも、周りの人のことを気にしていない、自分勝手な行動です。

最近はそのような連絡が来ていなかったのですが、先月の終わりに、地域の方から連絡がありました。でも、困っている連絡ではなく、嬉しい連絡でした。それは、学校の近くの交差点で、ご高齢の女性が転んで動けなくなってしまったそうです。そこに、下校途中に居合わせた七小の5年生男子4人が、その女の人に、「大丈夫ですか？」と声をかけ、通りかかった防犯パトロールの車を止め、助けを求めたそうです。そこで、転んだ時の状況などをしっかりと伝え、無事に引き渡すことができたそうです。その女の方は、「久しぶりに心が温まったので、どうしてもお話ししたかった。」とのことで、わざわざ学校に連絡をしてくれたのです。

これまで七小は、たてわり班活動などを通して、高学年が低学年の子の面倒をよく見ていると、保護者や地域の方からたくさん褒められたことがありますが、それが、学校の中だけでなく、学校の外で、しかも困っている高齢者に対して思いやりのある行動がとれたということは、本当にすごいことです。君たちの行動は七小の鏡です。

この他、七小にはみんなのお手本となるような素敵な5年生、6年生がたくさんいます。あと2か月で新しい学年になりますが、このような高学年が増えると来年度の七小も楽しみです。

さて、今月は「ふれあい月間」です。ふれあい月間とは、友達との関わり方を振り返る月です。自分がいいと思っていたことでも、友達にとっては本当は嫌なことかもしれません。もしそうだとしたら、これからの関わり方を変えていくようにしましょう。また、本当は嫌なのに、嫌と言えないでいる人もいるかもしれません。そんなことがあれば、アンケートで教えてください。そして、みんながお互いに思いやりをもち、一人一人を大切にすることで、みんなが毎日笑顔で過ごせる学校にしていきたいと思います。